

理事長挨拶

学校法人 加計学園 理事長・総長 加計 晃太郎



今、教育界は大きな変革のうねりの中にあります。

第2次安倍内閣は、教育再生実行会議を設置しました。平成25年1月24日に開催された初会合では、安倍総理から、「教育再生は経済再生と並ぶ日本国の最重要課題であること」「教育再生の最終的な大目標は、世界トップレベルの学力と規範意識を身に付ける機会を保障すること」「18年の教育基本法改正の理念を実現し、教育の再生に全力を挙げて取り組んでいくこと」等々の提言がなされ、文部科学省においてもそれを受けて種々の取り組みが行われております。

平成26年度事業計画で申し述べましたように、これら一連の教育再生のための改革は、本学園ならびに学園グループにとりまして「追い風」となるものが多々ありました。「理工系教育を始めとした各専門教育による質の高い人材教育」「SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業」「イメージ教育」「海外交流協定校との研修、弁論大会等の開催による海外交流」等々の開催によって独自の一貫教育、連携教育システム構築に邁進することができました。さらに、学校教育法の改正に伴い、学園内規程を総点検しました。それぞれに幾つかの課題もあったものの、総合的に見て所期の目的を達成できたと思っております。

私学にとりましては、常に來たるべき時代を予測し、未来社会が求める人材、未来社会に貢献できる人材を育成することが一つの使命であります。そのために、既存学部、学科、コースのあり方を絶えずチェックし、その充実を努めることはもちろんのこと、既成の枠に捕らわれない発想のもとに、新しい学部、学科、コースを創出して行くことが求められています。

平成26年4月に、御影インターナショナルこども園を開設、また千葉科学大学に看護学部を開設したのもその一環であり、新しい時代に対応できる体制がまた一つ整ったと自負しております。また、新学部設置については、岡山理科大学教育学部設置認可申請を行いました。

これらの新規事業の展開と教職員の不断の努力、さらには、私学として独自の教育研究の場を提供することによって、堅実な科学的素養と専門性を体得させ、併せて調和のとれた人間として信頼に足る人材を明日の社会発展のために送り出すことを念願しています。

一方、本学園における教育研究の成果を地域に還元して地域社会の発展と学術振興に貢献することは、人材育成と並んで学園の果たすべき使命でもありますので、地元の自治体などとの包括協定を積極的に締結し、連携交流を推進して参りました。

さらに、海外の交流協定校との交流や本学園主催の外国人による日本語弁論国際大会等は、教育研究の場における国際交流を通して、国際平和の実現を願っていた創立者の思いを具現化したものでありますので、今後ともより一層の充実を図って参ります。

最後に、本学園は平成23年の創立50周年を契機に、創立者の掲げた建学の理念に込められた私学教育のあるべき姿を「加計学園フィロソフィ」として編纂しました。本学園教職員には、この冊子から創立者の私学教育に掛けた情熱と意気込みを汲み取り、自らのものとして涵養しつつ業務遂行の道しるべとして役立ててほしいと願っております。